

詩集
森の扉

立野
竹久

文藝書房

詩集森の扉 目次

森 ☆ 8

奥會津 ☆ 10

真夜中のやあー ☆ 12

こだま ☆ 14

鐘 ☆ 16

北空 ☆ 18

月光症 ☆ 20

かがみ ☆ 22

ひたくれなぬ ☆ 24

ヨコハマ ☆ 26

本音 ☆ 28

石版画 ☆ 30

階段 ☆ 32

- ブルージーンズ☆34
薔薇夜☆36
羽化☆38
絵の中☆40
気付き☆42
ピアス☆44
夢中見舞☆46
星婚伝説☆48
櫻効果☆50
雨の日☆52
詩人☆54
貝殻☆56
標本☆58
山間茶店☆60
デジタル暮色☆62
ランプ讚☆64

- 日和佐 ☆ 66
そんな！ ☆ 68
蛙 ☆ 70
六月 ☆ 72
考察 ☆ 74
相合傘 ☆ 76
夢うつし ☆ 78
西瓜 ☆ 80
怪談 ☆ 82
オスに捧ぐ ☆ 84
竹富島 ☆ 86
電チン ☆ 88
さがしもの ☆ 90
まぶし ☆ 92
白紙の夜 ☆ 94
ようやく ☆ 96

月光浴 ☆ 98
夢遊 ☆ 100
スイッチ ☆ 102
おぼろげ ☆ 104
斜辺 ☆ 106
白いソファ ☆ 108
フォルティシモ ☆ 110
男を食い殺すという猫魔伝説 ☆ 112
夜想 ☆ 114
駅 ☆ 116
満月 ☆ 118
反螢光燈 ☆ 120
雨 ☆ 122
電子レンジにいて欲しい ☆ 124
彼女のノック ☆ 126

森の扉

森

その小径をずうつと行くと
きのうより明るい森があつて
とたんに空気がおいしくて
足もとには猫がいたので
いっしょに散歩する
わたしはずつと病院にいる
だからよけいうれしい
木々の葉っぱが春色で
こもれ陽は病いをいやす、
なによりの優しいくすりです

おととい金髪の華さんが亡くなった

華さんは元ヤンだったけど

「となりの病友」ということで

いろいろ話してくれたけれど

若くして枯れてしまつて

病室からすがたを消した

でも忘れない

病友なのだから。

猫がすり寄ってきたので

ひよいと抱きあげると

「泣くなよ」と猫なで声でいった

それは華さんの声にちがいはなかった

つかのまのちいさな道

せめてつかのまの明るい森

奥會津

横たわっているうちに

いつしか雷鳴が響きわたり

どんどん近くなり

そして大雨の音がする

わたしは目をとじたまま

静物みたいにじつとして

まぶたの裏に

あなたの形を

思い出したり

あなたの声を

なつかしむ

これもひとつの出逢いだらう

雨後の限りないしずけさに

目をあけると夕暮れていて

燧ヶ岳のシルエツトを背景に

半透明のおおきな鳥が

五次元のほうへ渡つてゆく

セピア色に染まる夕暮れのなかで

わたしはふたたび静物になり

深山の空気を吸いながら

ひとつの点になる

真夜中のやあ！

もしもの向こうで

あなたは息をひそめている

だからわたしは

声にならない声で

呼びつづける

あなたはだれなのだろう

月光が窓ガラスに沁みて

風景が凍りつき

それよりもっと

わたしは消えそう

だからこそ叫ぶ

叫びにならない叫びを

あなたにむけて。

月の光が耳の底にとどいたとき

わたしのどこかがまっさらになり

あなたのなまえを思い出した

あなたはわたしの

大好きな音楽だった

「あたしはずっとここにいた」

音楽はそうささやいた